

# 風間研教授退職記念号に寄せて

経済学部長 奥山利幸

風間先生は、2016年8月に古希を迎えられ、2017年3月末日をもって法政大学経済学部を定年退職されることになりました。経済学部学会は、これまで先生が法政大学、並びに法政大学経済学部の発展のためにご尽力くださったことに、先生の退職記念号を刊行することで感謝の気持ちを表したいと思います。

風間先生は、1946年東京にお生れになられ、学部学生の間三年間、フランスのブザンソン大学に留学されたご経験をお持ちであり、帰国後、学部を卒業され、その後、国内の大学院にて研究を進めて来られ、1999年4月に法政大学経済学部に着任されました。以来18年間、フランス語を中心に語学や外国の文化、文学、芸術などの講義、演習をご担当されて来られました。日本フランス語教育学会や日本フランス語フランス文学会の会員として活動を続けて来られ、フランス語教育の発展にも貢献されておられます。

先生のご専門は、『小劇場の風景 つか・野田・鴻上の劇世界』(中公新書)などにございます演劇研究、『幕間のパリーモリエールはわれらの同時代人』(NTT出版)などのフランス演劇研究、そして、演出・演出家研究であり、日本演劇学会の会員としても研究活動を続けて来られました。先生の研究業績の詳細につきましては、『経済志林』本号に後述の一覧をご覧くださいとありますが、著書、論文以外にも多数の論説、評論、劇評

などをご執筆になられ、盛んに研究されて来られたばかりでなく、研究成果を社会に還元もされて来られました。

風間先生は、教育や研究の他に、教授会主任の役職も務められ、本学部に学部執行の立場からも貢献されました。先生と私の直接の接点は、先生が教授会主任を務められておられた時であり、私はその時教授会副主任でありました。先生の人となりにつきましては、余り詳細に申し上げることはできませんが、美味しい食べ物、ワインに目がなく、豪快、明朗、まさに演劇演出家のようにあります。サバティカルでは決まってフランスに赴かれ、演劇研究に没頭されておられるわけですが、やや余談になりますが、最初のサバティカルでは狂牛病で世間が騒いでいる中、フランス料理の牛の脳味噌料理に舌鼓をされておられたとか。先生が退職されることになり、私はとても残念な思いです。

退職後もますますお元気にてご活躍くださるようお祈り申し上げますとともに、今後も学部の外より末永く学部、そして、大学の発展のためにお力添えをくださるようお願い申し上げます。